



AKITA HERITAGE CENTER

秋田ヘリテージセンター

5 四季

建物の外側に広がる四つのオープンスペースは、それぞれ四季を象徴しています。

春のエリアは水辺に面し、落ち着きが感じられます。

夏のエリアには豊かな緑が広がり、木陰や涼しさを提供する憩いの場となります。

秋のエリアには紅葉が色づく樹木を植え、訪れる人々が季節の移ろいを直接感じられる空間を演出します。

冬のエリアには噴水があります。冬になったらその場所にかまくらをつくって楽しめるイベントを開催します。

こうして四季それぞれの特色を外部空間に織り込み、日本の自然観を建築に融合させます。



6 空間ロジック

1. 有機的なフォルム

秋田ヘリテージセンターの花びら型構成は、現代都市の直線的で格子状の動線とは異なり、伝統的な日本の町並みに見られる有機的で曲がりくねった路地を作り出します。円環状に広がる建物と曲線状の道は、人々が歩んできた道を振り返る「滞留の場」を自然に生み出します。これにより、急いで通り過ぎるのではなく「花見」のようにゆっくりと滞在する体験が生まれます。

2. 花びらを機能ゾーンとして活用

各花びら部分は異なる機能を担いながらも全体として一体感を持ちます。中央部（花のしべにあたる部分）は自然と人が集まる場となり、季節のイベントに最適な拠点となります。

3. 象徴性とアイデンティティ

桜という形を選ぶことで、「MADE IN JAPAN」を体現する象徴的な存在となります。形そのものが動線、空間分節、そして社会的体験を規定し、日本のアイデンティティを作り上げます。



7 内部

「4 コンセプト」で説明した通り、秋田ヘリテージセンターには5つの建物に異なる施設があります。

1. カフェ・レストラン



大通りに面する安らぎの場。郷土料理・地域素材を使った料理を提供。

・バババアイス
・稲庭うどん
・きりたんぽなど

2. 観光案内所



観光客向けに、秋田の魅力のなスポットを紹介。

他にも交通・宿泊情報を発信。

3. 工芸体験・文化資料館



観光客や市民が秋田の文化に触れ合えるスペース。資料館でもある。

・川津漆器
・樽細工など

4. 図書館



特に学生が使える自習机を多く設ける。

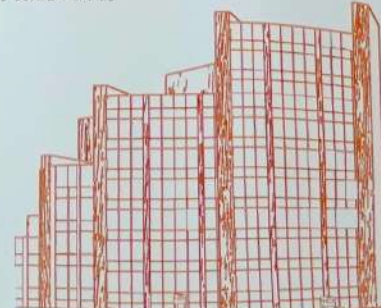
5. イベントホール



地域の人々が交流できる機会を増やすことで、コミュニティセンターとしての役割を果たす。

内部のデザインポイント

階段状の各「花びら」は、以下のような内部構造を持っています。開放感を感じさせられる空間となります。



1 問題提起

近年、日本を訪れる観光客の多くは東京・大阪・京都などの限られた都市や、有名な世界遺産がある観光地に集中しています。その一方で、これら以外の地域、特に東北地方のような自然や文化資源が豊富でありながらも知名度が低いエリアでは、観光客が十分に訪れず、地域経済の活性化や文化の継承に課題が生じています。

4 コンセプト

本施設は地域の暮らしと観光をつなぐ「四季の文化館・コミュニティセンター」です。四季文化をテーマに、春・夏・秋・冬それぞれで異なる体験を提供し、訪れるたびに新しい魅力に出会える空間を目指します。建物は桜の花びらをモチーフとした有機的な平面構成とし、それぞれの「花びら」が異なる機能を担います。郷土料理や地域素材を活用した料理を提供するレストランやカフェ、工芸体験スペースや文化資料館、図書館、多目的ホールなどを配置し、観光客と市民の双方が気軽に利用できる複合施設となります。

外装や内装には秋田杉を使用し、施設内で降った雨水は貯水し、敷地内の水盤や植栽への散水に再利用します。

長く使われてきた素材とデザインを用いて伝統的建築を現代風に再解釈し、外観は地域の景観に調和しつつも新たなランドマークとなります。

また、観光案内や県内イベント情報の発信機能を備えることで、県外からの訪問者にとっては秋田探索の出発点となり、市民にとっては日常の憩いの場として活用できる、二重の価値を持つ拠点となります。

高さ：13.50 m 階数：3F



3 計画地

本施設は、秋田市中心部に位置しています。秋田駅・市内主要ホテル・公園・文化施設に近接しているため、観光ハブとしての利便性がとても高いです。住宅地にも近いため、市民の日常生活の一部になることができます。敷地面積：約 2498 m² (51.34m x 48.65m)

